

重要な  
お知らせ

# パルシステムでんきから 組合員のみなさまへ



## 現在、世界的に燃料価格が上がっています

昨年（2021年）の秋から、日本の電力供給は不安定な状態が続いています。これには地球温暖化防止に努める世界的な「脱炭素」への転換の動きが関係しています。

日本政府も、2030年度には温室効果ガスの排出量を2013年度と比べて46%削減し、2050年には脱炭素を実現する目標を掲げており、太陽光発電を中心とする再生可能エネルギーを推進しています。

しかし、天候などの諸条件に左右される再生可能エネルギーでの発電量のバランスをとるため、LNG（液化天然ガス）火力発電などの稼働率が世界的に高くなっています。そのため、LNGの燃料価格が上昇し電気代が燃料費調整額として高騰していました。また、気候変動問題を話し合う国連の会議「COP26」で化石燃料使用への批判は高まり続けており、従来の石炭火力発電は急激な廃止が進む一方で発電時に二酸化炭素の排出が比較的少ないLNGは世界的に需要が高まり、燃料価格そのものが世界的に上がり続けていました。

そのようななか、今年2月にはウクライナ侵攻にともない、ロシアのLNGに多くを依存していた西欧各国の経済制裁によるエネルギー価格の変動が起きました。また、3月には日本でも寒波が列島を襲い電力消費が上昇、さらには東北地方の地震発生も重なり、「電力需給ひっ迫警報」が発令される事態に発展しました。

現在、日本では電力の市場価格が高騰して、調達価格が販売価格を上回る期間が長期化している状況です。

これらの状況を受け、パルシステムでは「パルシステムでんき」を通じた再生可能エネルギーのある社会づくりを今後も推進し続けるため、「電気料金の値上げ」をせざるを得なくなりました。

ここに、組合員のみなさまのご理解と引き続きのご協力をお願い申し上げます。

## なぜ今、電気料金が上がっているのか？

2021年の秋から  
電力供給が不安定な  
状況となっています



©撮るねっと/PIXTA

ウクライナ危機の発生で  
各国のエネルギー争奪戦が  
起きています

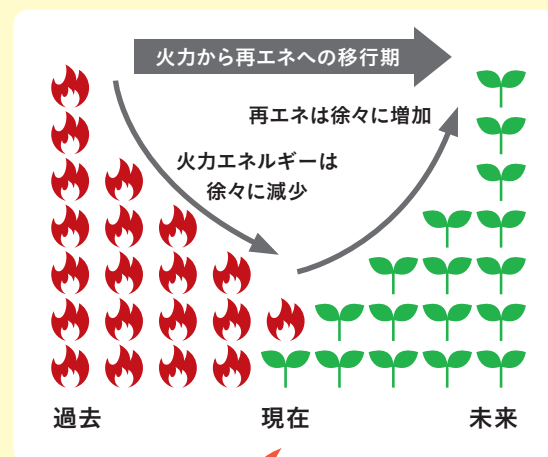
日本の  
化石燃料依存度は  
84.8%※



©トシチャン/PIXTA

※出典：資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」の2019年度  
確報値より。石炭、石油、LNGを足した数値

「火力発電から再エネへの移行期」  
のため発電が不安定な状態です



- コストはかかっても火力発電に頼らざるを得ない
- 再エネはまだ初期費用のコストがかかっている

2021年の秋から日本の電力供給が不安定な状況が続き、市場価格が高まりました。そのようななかでロシア軍によるウクライナ侵攻や大規模地震の発生など複数の要因が重なったことで、日本のエネルギー需給はひっ迫した状況が続いております。

新電力事業は非常に厳しい状況下ではありますが、  
ご契約のみなさまには今後も安定した電力供給を続けてまいります。  
みなさまのご協力をお願いいたします。

重要な  
お知らせ

# パルシステムでんき 料金改定について



パルシステムでんきは2022年7月17日(日)ご使用分より電気料金を値上げいたします。未来の子どもたちのために再生可能エネルギーのある社会づくりへの歩みは続けます。どうぞ組合員のみなさまのお力を引き続きお貸しください。

**実施日** 2022年7月17日(日)ご使用分より

【例】ご使用期間が6月25日～7月24日の場合、  
7月17日以降のご使用分から料金改定となります。

**概要**

- これまでの電気料金に「電力調達調整額」が追加されます。1キロワット時につき4円40銭(税込)の値上げとなります。
- 「基本料金」「電力量料金」は変わりません。
- 「燃料費調整額」「再生可能エネルギー発電促進賦課金」はこれまで通り別途かかります。

これまでパルシステムは「減らす・止める・切り替える」を合言葉に、原発に頼らないエネルギーによる安全で安心なくらしづくりを、とくに次世代の子どもたちの未来のために、私たち世代の責任として取り組んできました。

その取り組みのひとつが「パルシステムでんきの普及促進」でした。

持続可能な社会を、誰もが取り残されず、ともに生きていけるくらしを実現させるもの——それが、パルシステムでんきであることはこれからも変わることはありません。

その思いは、2011年のあの東日本大震災と原発事故で深く刻まれたパルシステムと組合員のみなさまの強い願いであったことは片時も忘れません。

現在の厳しい状況はしばらく続くことが予想されますが、引き続きその歩みを絶やさないため、私たちは発電産地とともに再生可能エネルギーの普及をこれからもめざして行きます。

## みなさまへのお願い

### これからの再エネ普及における課題

再エネは2012年から増加し、とくに太陽光発電は2020年時点で日本の発電量の約9%を占めるほどになりました。太陽光発電が急速に増加したことで日本の再エネ比率が高くなったのは事実ですが、電力供給の安定性はイコールではありません。太陽光発電は前提として昼間しか発電できません。天気にも左右されてしまいます。また、冬には太陽光パネルに雪が積もり、発電できなくなることもあります。

これからの課題は、太陽光で発電できない時間帯の発電をどれだけ火力発電に頼らないようにしていくかということです。それには電気の使い方がポイントになってくるのです。

### 日常の暮らしを見直しませんか？

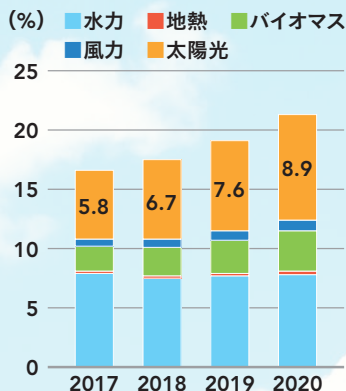
昼間の時間帯は太陽光発電のおかげで発電量は安定してきています。これから再エネの普及が進み、電力供給が安定するまでは、現状の電力供給事情に合わせて生活スタイルを工夫していくことが求められています。例えば…

- お掃除や食事の支度は太陽が出ている間に済ましてしまう。
- 見たいテレビが夜の放送のときは、録画しておいて昼の時間に見る。
- 夜は早く寝ることで照明を点ける時間を少しでも短くする。

火力発電の燃料を海外からの輸入に頼っている日本においては、再エネの発電量が足りない分を火力発電でまかなっている限り、不安定な発電状況を変えることはできません。電力の市場を安定させていくためにはみなさまのご協力が必要不可欠になっています。

#### 年間発電電力量の割合

日本国内の電源構成中、再生可能エネルギーの割合を示したグラフ。再生可能エネルギー全体でも伸びていますが、太陽光発電の伸びが他に比べて大きいため、天気や気候の影響を受けやすいのが現状です。(資源エネルギー庁「電力調査統計」などを元に当社でグラフを作成)



### Q なぜ新規申込受付を停止しているの？

**A** FITの調達価格は日本卸電力取引所の価格を適用する制度となっているため、現在、販売価格を調達価格が上回っている状況が続いています。そうしたなか、現在ご契約のみなさまへの電力供給を最優先させるため、新規申込受付を制限させていただきました。

### Q 発電産地は大丈夫なの？

**A** 発電産地は今回の調達価格が上がっている問題には影響を受けていません。パルシステムでんきはこれまでどおり、発電産地からの電力調達を続けてまいりますので、これからもご契約のみなさまのご支援ご協力をお願いいたします。

お問い合わせ:パルシステムでんき問合せセンター

0120-868-106

【受付時間】月～土 9:00～17:00 ※通話料は無料です。